

大坂 明治八年
錦馬 新聞
第廿三号

尾張國中根村伴野新藏、或る時兄の新壺門が
火傷を以て膝を伸を痛て難波なる病院へ入り
凡ふ丹漆を塗ら看病おひ傷ハあをりたれと肉
くまりて足らぬ所なり此を置けば又膝の

のびざる事ホ多くと医者の云ハ新造の
いふ事を全快と云と尋ハ是ハ
人の肉を以て其肉肉を切らり
癒るありされ私肉を切らり

兄より給られと義と義で合ミテ
を以て親ハつら火傷の治療は肉を兄へを
刀で追く双方快気せ一其牙の懇切を懸懸
ゆも又感せられ御褒賞五円頂き一ハ
明治八年一月の讀 責四十一号、出ル

文花堂誌



新造
錦馬
新聞

